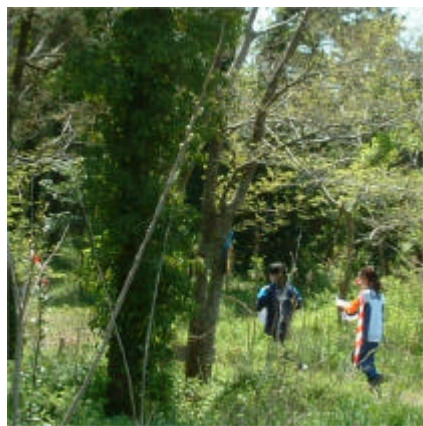


# 復活塩田・好調松澤

山本英勝

関東地方にあって、これほどのトレインが今まで一度もオリエンテーリングに使われたことが無いなんて・・・細長いが素晴らしいトレインの砂防林。砂浜と広がる太平洋。最高精度の地図を手に4月の春光を走る気分は最高潮。

第22回京葉オリエンテーリングクラブ  
蓮沼砂丘大会（千葉県蓮沼村）  
2004年4月18日（日）



新緑の砂丘へと駆け出すランナー

## 復活塩田・好調維持松澤

2004年4月18日千葉県山武郡の蓮沼海浜公園で第22回京葉オリエンテーリングクラブ大会が開催。3月に行われた全日本選手権大会を制した松澤俊行（京葉OLC）が、平成16年度に入っても好調を維持。世界選手権代表選考の参考レースでもある本大会を制した。女子は昨年度体調を崩し全日本でも3位に終わった塩田美佐（みちの会）が優勝。

## 海浜の初トレイン

関東では珍しくなってきた過去にオリエンテーリングが行われたことのないニューマップは海岸の防風林を駆けめぐる。7500分の1という縮尺でも読図が難しい箇所も多く、トップ選手でも手こずった。エリアが狭く、道にも囲まれていることから大きなミス

はしないが、植生がまだらに悪い箇所も多い上、走行可能度の良い場所でも、枝が低く見通しが悪い。男子はキロ5分の40分がウィニングタイム設定であったが、実際には松澤が44分04秒。一方女子は塩田が不満な内容ながら39分25秒であった。

## 男子・松澤と篠原

松澤は前半、ミスもありリズムに乗れないが、ミスを最小限に抑える。後半に入り徐々に順位を上げた。

2位に入った篠原岳夫（渋谷で走る会）は27番までトップ。最後で逆転され松澤と19秒差の44分23秒。細かい地形が多い中、エーミングオフを多用でミスを抑えた。更に「地図との対応がばっちり」で上位陣が苦しむ中全体的にスムーズにレースをこなした。とくに直進には細心の注意を払う。

「直進しないとゆらゆらしてしまう。がまんして最短距離をびしっと走るためまっすぐ行くことに集中した」

前日トレーニングトレインに入り、トレインの様子が多かったという。また、一番で距離感があわずミスを犯しそうになったため、その分身を引き締めて走れた。レース後半に疲れから直進がずれ23番でロスするが、全体的に集中力を維持し、満足のいくレースだった。

## 女子・塩田と田島

女子優勝の塩田は昨年体調を崩し、全日本でも結果が出せなかった。全日本選手権を優勝したその前年度では他を寄せ付けない圧倒的な強さだったので周囲を心配させた。この4月からより競技に専念できる環境を整え、夏のスウェーデンに向け良いスタートを切った。

この日のレースの内容に関しては「まあまあ。モデルの方では「全然分からない状態だった」ので全体的に安全運転で淡々と確実なものを拾いながら進めた。

「スピードを出せなかった」「うろろうろしていた」と不満が多いレース内容だった。大きなミスをしないことに注意していたため「ここらへんにある」という全体的な把握には問題なかった。また、課題として挙げていた「足でど

んどんいらずコントロールしながらイメージで進む」ということもうまくいった。

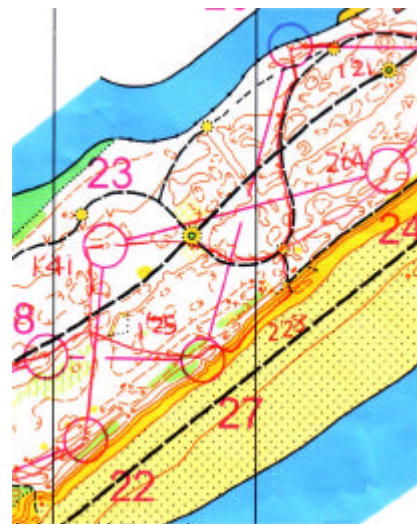
「ちゃんとトレーニングできるように良く食べ、良く寝る。運動選手として基本的な生活をする」という塩田選手の完全復活が期待される。

二位に入った田島利佳も他の選手と同様「慎重にやりました」「良いレース、リズム良くできた」という彼女の言葉を裏付けるよう、途中までトップのラップ。15番で塩田に逆転されるが20番までは24秒差。「一カ所40秒ぐらいミスった」という21番では手前で止まってしまった。塩田が1分11のところを2分21秒。一気に離されてしまった。

レース全体としては「アタックを点で確定させ、曖昧なままやらない」という課題をこなし満足な内容。

「今の状態なら普通にやれば悪くない。ミスをせずに手堅くやっていきたい」と調子を挙げてきている。

（山本英勝）



本大会の地図の一部

MEは8.1km アップ80m コントロール数29  
高速レースが展開され、一瞬のミスで順位が大きく変動した。  
細長いトレインを感じさせないようクロスしたコース設定となっている。